

●アンケート結果ご報告

2012年～2015年、ジャパンインターナショナルドッグショー会場にてアンケート調査を実施いたしました。たくさんの方がブースに足を止めてご協力くださいまして大変感謝しております。こちらに集計結果の一部をご紹介します。



■犬の保護活動をしている人々がいることを知っていますか

	2012	2013	2014	2015
ネットや各種イベントなどで知っているのが興味深い	394	422	363	296
自分が活動している、関わっている	78	33	33	52
良いと思うが信頼は薄い	14	44	24	9
知っているが興味は無い	12	9	9	15
可哀相なので見ないようにしている	6	6	7	9
胡散臭い感じがする	3	1	0	0
関わり合いたくない	2	1	1	0

多くの方が高い関心をお持ちであるという結果でした。調査の際、「興味はあるが自分に何ができるのかわからない」といったご意見も多くいただきました。より深い理解と周知により、レスキュー活動に何らかの形で関わる人は増えるのかもしれない。

■犬の保護活動の必要性についてどう思われますか

	2012	2013	2014	2015
必要不可欠だ	446	433	378	286
自己責任でやりたい人がやれば良い	36	36	28	23
分からない	14	31	20	7
ペットショップやブリーダーに迷惑がかかるのでは	4	0	1	0
無責任な繁殖・放棄を助長させるのでは	4	8	5	6
不必要だと思う	2			1

やや慎重なご意見もありましたが、犬と暮らす多くの方が必要性を強く認識しているようです。こうした活動への関心の高さは、行政による犬の殺処分が年々減少していることにも関係しているのでしょう。

■犬の殺処分についてお考えをお聞かせ下さい

	2012	2013	2014	2015
どんな事情でも絶対反対	242	271	255	213
方法は分からないが殺処分が無くなるようにしたいと思う	152	134	126	95
事情によっては殺処分が必要	110	73	48	82
分からない	20	17	16	3
殺処分があるから日本は清浄国家だ	1			0
自分には関係ない	0	2	1	0

「どんな事情でも絶対反対」「方法は分からないが無くなるようにしたい」といった、殺処分そのものをなくしたいという前提での回答が多数でした。「事情によって必要」へのご意見にも「やむを得ない場合のみ」などの注記をつける方が多かったです。

■ブリードレスキューを知っていますか

	2012	2013	2014	2015
初めて聞いた	217	248	184	
知っている	166	93	115	
詳しくは知らない	96	136	107	
興味がある	36	21	19	
わからない	12	19	21	
知りたいと思わない	8	0	0	

まだ耳慣れない言葉のようで、ご存じないという方が多いようです。ブリードレスキューの理解が深まることは、すべての犬の救済に繋がります。今後の活動で広く理解されることを願っております。

■どの犬種にブリードレスキューがあったら良いと思いますか

	2012	2013	2014	2015
飼っている犬種	146	118	115	124
流行、売れ筋の犬	124	120	103	68
わからない	112	196	144	79
近所や友人知人の飼っている犬種	86	32	45	110
全犬種（2012、2013は選択肢はないが除外記載）	64	28	31	12

ブリードレスキューの趣旨を読んでいただきながらの設問でした。馴染みの犬種や流行犬種との回答が多かったですが、当初は選択肢になかった「全犬種」との記入もあり、全体的に犬のレスキューそのものの必要性を認識している方は多いようでした。

■今後犬を入手する機会があったら、どこから犬を迎えようと思いますか

	2012	2013	2014	2015
ブリーダー	290	192	159	180
保護団体	170	157	153	122
保健所・愛護センター	156	152	147	111
相性や運命が大切だから場所は問わない	98	125	104	99
友人知人からの譲渡、斡旋	87	28	19	32
ペットショップ	70	28	35	23
インターネット	5	6	1	3

保護団体や保健所という回答も多いただきましたが、犬種の愛好家の多いショー会場での実施でしたので、ブリーダーが最多でした。ブリーダーの選別については、ぜひ中ページをご覧ください。



発行：BARC 犬種レスキュー連絡会
2016年4月2日・3日
FCI ジャパンインターナショナルドッグショー2016
ブリードレスキューブースにて配布

アンケート結果をはじめ、活動の報告などはBARC ホームページをご覧ください。
<http://barc2011.web.fc2.com/> →



Breed ブリード 種類、犬種
Associated アソシエイテッド 関係、共同
Rescue レスキュー 保護、救助
Connection コネクション つながり、連絡会

BARC は 2011 年に設立された各犬種保護団体の横のつながりと情報の共有を補佐する非営利の団体です

■ブリードレスキューをご存知ですか？■

ブリードレスキューとは、愛好家や専門家による特定の犬種を対象にした保護犬譲渡の活動のことです。

特定の犬種、性質や飼育管理に共通点の多い犬種に限定したレスキュー活動には、多くのメリットがあります。例えば犬種に理解の深い人が関わることで、保護された犬の性質や状態の見極めをより的確に行うことができるようになり、飼育管理についての情報提供もしやすくなります。また、保護犬を迎える家族として迎えたいという人にとっても、自身の生活環境に応じた条件の中での出会いを探しやすく、飼育管理についてのより的確な助言を受けられるようになるのです。

その結果、「保護に関わる人」「新たな家族として犬の譲渡を受ける人」「家族をさがす犬達」のすべてにとって、よりリスクと負担が少ない譲渡が可能になります。

また、ブリードレスキューは決して特定の犬種だけを救済することが目的ではありません。それぞれが得意な分野の犬に関わり、生活環境の許す範囲での活動ができるので、保護に関わることができる人を増やし、結果として救済できる犬の受け皿を増やすことになるのです。

全ての犬種にそれぞれレスキューが出来れば、地域密着型の全犬種保護団体が救う犬の枠が増えることになり、それによって全ての犬たちが二重三重のセーフティネットで守られることを願っています。

■犬種（ブリード）とは何か？■

犬種というのは、地球上で人と犬が共に暮らしてきた長い歴史の形そのものです。

人の生活圏の中で共に暮らしてきた犬達は、人と共に移り住んだあらゆる地域の気候や環境に適応し、人に求められた役割によって様々な特徴を持つようになりました。そうした、人と暮らす上で望ましい特徴に基準（スタンダード）を設け、品種改良を含めた繁殖管理によって維持されてきたのが「犬種」として分類されている犬達です。

現在も私たちの社会の中で暮らす犬たちの中には、容姿や大きさ、性質の違う様々な犬種がいます。それにより多くの方が、暮らしの中で生じる制限や抱く理想にある程度沿った犬を迎えることができているはずです。また、人に対して攻撃的ではなく人の社会に順応しやすい性質などの暮らしやすさに直結するような特徴も、繁殖管理によって守られているものです。

生活の形が多様化し住環境等による制限も複雑化している現代社会において、犬種を健全な状態で維持することが、人と犬のより良い関係と快適な暮らしの助けになるのです。

☑ 良いブリーダーって？

ブリーダーから犬を迎えたことがある皆さん、これから迎えようとしている皆さん、せっかくだから良いブリーダーから迎えたいですね！良いブリーダーとはどういうブリーダーでしょう？チェックを入れてみましょう♪



☐繁殖しようとしている両親の情報を教えてくれる。

例えば実際に会わせてくれるとか、血統書を見せてくれたりすることです。

☐どのような環境で飼育しているのか見せてくれる。

環境を見ることで その後の生活の参考になります。

☐犬たちが安全で自由に運動出来るような環境を準備している。

親犬が安全で健康的な自由運動を出来る環境が、産まれてくる子犬たちの初めての遊び場になるのです。

☐1年に1回以上繁殖させない。

繁殖を頻繁に繰り返すのは特に母犬にとって大変なストレスです。

☐繁殖しようとしている両親の5代祖までその犬種に多い病気の発症の確認と遺伝疾患に関係する遺伝子を可能な限り検査している。また十分な健康診断も併せて定期的に行っている。

純血種ではその歴史の中から特有の遺伝疾患があぶり出されていますので知識が豊富なブリーダーなら調べ上げています。5代祖、つまり遡ること5世代まで調べればその犬のバックグラウンドを調べ上げることが出来ます。

☐複数犬種のブリーディングをしていない。

繁殖にはその犬種の膨大な知識が必要です。するとしても近い犬種を2種類まで。関連性もないのに人気犬種だというだけで繁殖をするのはブリーダーではなくパピーミルと言われる動物をお金のためだけに繁殖しその命も尊厳もないがしろにする『子犬大量製造工場』を経営する人たちです。

☐産まれた子犬たちは母犬や兄妹たちと2ヶ月以上一緒に暮らしている。

子犬の健全な成長と母犬の体力回復の為に最低2ヶ月は一緒に過ごす方が良いです。

☐繁殖に使った犬たちは引退後も終生大事に飼養している。

一度でも自分の犬舎に入った犬たちは家族として全て大事に終生飼養するものです。そうすることによって長い期間病気などの健康状態の確認も行っています。

☐譲渡した後も何かあれば引き取ってくれる。

自分の犬舎から出した全ての犬たちに対して終生責任を持つ覚悟でいるものです。

☐ブリーダーをすることで生計をたてていない。また他に生業を持っている。

子犬を産ませてそれを売ることによって生計を立てていると、犬種の特徴や健康の維持よりも利益最優先になってしまいます。その結果、健全な繁殖ができなくなります。

☐譲渡する先はブリーダーが選んでいる。

ブリーダーにとって選び抜いた犬同士の子供達を譲る先はこだわり、子供達が終生幸せに過ごせると確信がもてるような最良の縁を待つものです。

☐繁殖するために迎えた犬でも、向かないことが分かったら繁殖しない。

ブリーダーの大事な役割のひとつに“その犬種の特徴や健全性、その良き性質を守る”というものがあります。そこから外れると思われる犬や遺伝性の問題を抱える犬の血筋は遺してはいけません。自分の犬が可愛くて子供が欲しいという理由だけで安易に繁殖させてしまうようなバックヤードブリーダーと言われる人たちは、こうした大事な知識がない場合が多いのです。

☐たとえ遺伝的にも問題なく見た目がとにかく可愛い犬でも、その犬種の特徴を引き継ぐことが出来ない時は繁殖しない。

ただ可愛くて売りやすいからと言って繁殖してしまうと時間をかけて作り上げて来たその犬種の特徴や良い性質を遺すことが出来なくなります。

☐譲渡する犬には不妊手術を勧めている。

たとえ最高の繁殖であっても、しっかりとポリシーを持って行っているため、その子供達が繁殖するのを安易に勧めることはしません。

チェックしてみてもいいですか？

これはチェックが一つでも付かなければ「良いブリーダーとは言えない！」という意味ではありません。ただ、大事な家族を迎える時にどうやって選んでいこうかと検討する時にちょっと思い出して欲しいのです。またすでに迎えられている方は、その可愛い家族がどのように繁殖されたのか、想いを馳せていただきたいなと思います。

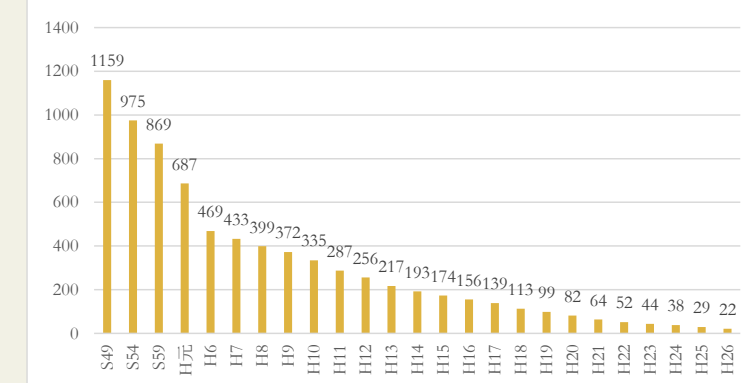
ある特質を持った犬同士いろいろな場面で人間の為になるように時間をかけて作り上げられてきたのがその血統書を持つ犬種です。使役犬、猟犬、牧羊犬など様々ですが意味を持って作られてきました。その血統の特質を守らないで安易に繁殖をしてしまうことや、それを知らずに販売、飼育することが現在の純血種の遺棄につながっていることも見逃せません。

1頭でも幸せになるように、そして1頭でも不幸な犬を出さないようにするために、参考にさせていただければと思います。



犬の殺処分数は、年々減少しています。ここ十年の推移では、返還・譲渡数の増加より引き取り数(収容数)の減少の幅が大きいです。遺棄される犬を減らすためにも、飼育者の環境に応じた無理のない譲渡が重要です。

犬の殺処分数推移(千頭)



データ参照: 環境省 HP より

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html

(参考)平成16~26年度の犬・猫の引取り状況

	引取り数	処分数	
		返還・譲渡数	殺処分数
平成16年度	181,167	25,297	155,870
平成17年度	163,578	24,979	138,599
平成18年度	142,110	28,942	112,690
平成19年度	129,937	29,942	98,556
平成20年度	113,488	32,774	82,464
平成21年度	93,807	32,944	64,061
平成22年度	85,166	33,464	51,964
平成23年度	77,805	34,282	43,606
平成24年度	71,643	33,269	38,447
平成25年度	60,811	32,092	28,570
平成26年度	53,173	31,625	21,593

(注)16,17年度の犬の引取り数は、狂犬病予防法に基づく抑留を勘案した推計値である。